本格的に中心市街地の活性化を

中心市街地の活性化策を示した米沢市

文化交流拠点整備による交流促進

10/27 米

公共事業を積極的に配置していく

米沢市議会総務文教常任委員会協議会が26日開かれ、中心市街地活性化基本計画策定の基本的な考え方（素案）が示された。これによると「文化が薫るまち、城下町らしいまち、市民が活発に交流するまち」を将来像として掲げ、文化交流拠点整備による交流促進などの事業に着手していくこととしている。

これまで中心市街地は具体的な進展がないまま経過してきた。この間の空洞化も進み、中心市街地の活性化まちづくりが市の最大の課題となっていた。こうした現状を踏まえ、公共事業を積極的に配置した中心市街地のまちづくりを先行させることにより、民間活力の誘導を促し、にぎわい創出などを目指した視点に方向転換することにしている。方向性を明確にし、活性化のために様々な事業を展開していく。

事業の一つの「文化交流拠点施設による交流促進」については、新図書館と市民ギャラリーの合築整備により、既成の市民文化会館やまちの広場を含め、中心部に文化交流の拠点を整備することにしている。

特に新図書館はシンボル施設として、男女問わず広く市民の利用があり、また、まちなかの気軽な居場所となる公共空間づくりを目指していくとしている。新図書館と市民ギャラリーは現在のところ、ボボロビルを再整備し利用したいとしている。

また、都市機能の充実などによる交流促進事業については、中心部住民のコミュニティ振興として「中部コミュニティセンター」の建設、市営駐車場の建て替えなどをあげている。中部コミュニティセンターについては、現在の興譲小学校と併設型を予定している。ボボロ西側の市道は一方通行を解除し、対面通行にしていくことなどの考えが出された。

これらについて、委員からは「平和通りの一方通行解除が以前から叫ばれていたが、一向に進展していない」「学校がコミュニティセンターと併設になると学校へも行き来が自由になり、危険もあるのでは」などといった質問もあった。

市は「平和通りは幅員が狭く道路幅を確保するのは困難、アーケードもあり、今回の計画では手を加えない考えだ」「コミュニティセンター建設に至っては地元住民と話し合いを行いながらやっていきたい」と述べた。

施設整備、文化や歴史重視

中心市街地活性化計画 市議会常任委で素案報告

米沢市

10/27 国のまちづくり三法に沿った中心市街地活性化基本計画の素案をまとめ、26日の市議会総務文教常任委員会で報告した。2010年度から5カ年計画で、文化や歴史を重視した施設整備とまちづくりに取り組む。米沢商工会議所など民間団体の意見を反映させ、市は「09年度内にも国に申請したい」としている。

素案では、計画区域を、平和通り商店街を中心とした約1ヘクタールに設定。公共事業を積極的に行い、民間活力を生かしたにぎわい創出を目指す。市の将来像を「文化が薫るまち、城下町らしいまち、市民が活発に交流するまち」とし、文化交流拠点整備▽城下町らしい拠点と景観づくり▽都市機能の充実―による交流促進を三つの柱に据えた。

具体的施策として、平和通り商店街に面した場所に図書館と市民ギャラリーを併設した文化交流施設を新築するほか、米沢城三の丸土塁を生かした「まちなか歴史公園」の整備、中部コミュニティセンターの建設（周辺市道整備を挙げた。

商業施策については、米沢商工会議所から提案を受ける。

事業費には国のまちづくり交付金を充てる。米沢総合運動公園に整備する人工芝サッカー場も含めた総事業費は40億～50億円規模となる見込み。